



## 可能性の塊

南帷子小学校長 堀田 誠

最近、日課となっていることの一つに、帰宅後に YouTube で期間限定で放映されている「スラムダンク」を見ることがあります。親さん世代なら、スラムダンクはよく知っているかと思えます。現在は、湘北 vs 陵南の全国大会をかけたの試合です。実は、バスケットボール部の顧問を長い間行っていた関係で、このスラムダンクという作品は大好きな漫画の一つです。わずか半年間の出来事を、あれだけドラマティックに描く作者の井上雄彦さんは本当にすごいです。現在人気の漫画「キングダム」の作者の原泰久さんも、井上雄彦さんのもとで修業を積んだそうで、井上雄彦さんの偉大さは計り知れないでしょう。



サツマイモの花？

さて、スラムダンクでは数々の感動シーン、名言がありますが、バスケットボール部の顧問をしていた関係で、安西先生が印象に残っています。一番有名なのは、中学時代までは MVP 選手だった三井寿が、怪我による挫折でバスケットを憎み、そしてある日、湘北高校の体育館に殴り込みに来ました。散々暴れた末に、そこに現れた恩師である安西先生をみて「バスケがしたいです」と泣き崩れます。実は、三井寿は湘北高校の監督である安西先生にあこがれて、数々の有名校の誘いを断って入学したのです。それは、ある日の大会で、来賓席に来ていた安西先生から、あきらめかけていた三井寿に、「あきらめたらそこで試合終了ですよ」と声をかけられたことで、試合をひっくり返すことができたのです。そんな恩師と久しぶりに出会い、自分の本当の気持ちが「バスケがしたいです」という言葉になったのでしょうか。

安西先生は、かつて「白髪鬼」と呼ばれ、鬼コーチとして大学で指導していました。しかし、ある事情で仏のような人になりました。そんな安西先生が、バスケ初任者の桜木花道、そして同じ学年の流川楓の可能性を見抜き、温かく見守り続けました。かつての白髪鬼の面影は一切ないです。そして、全国大会で、前年度優勝校の山王工業戦で、一気にその才能が開花し、ついに、残り1秒で桜木花道のシュートで湘北が逆転勝ちを収めるのです。このシーンを思い出すだけで感動します。そんな2人のプレーに安西先生は、身震いするシーンがありました。可能性を信じ、その子に應じた的確な助言をすることで、本人をやる気にさせ、そして見事開花したのです。

小学生の子どもを見ていると、「可能性の塊」のように感じます。今年度、3年ぶりに全校児童による運動会を実施しました。コロナ禍において、様々なことが変わったり、中止になったりしました。時代に合わせて、変革することも大切な作業ですが、良いものはやはり良いので、残す作業も必要です。運動会で6年生が学校のリーダーとして引っ張る姿、5、6年生の係の児童が自分の役割を果たそうと頑張る姿、そして同じ学級、同じ団の仲間・友達を応援する姿、そして、何より必死になってゴールを目指して走る姿など、見ている側が元気をもらったり、感動したりすることができる運動会は、子どもの可能性を広げる行事であり、学校教育の不易な部分だと言えます。

今後、宿泊を伴う行事、仲間と関わり合う機会など、子どもの可能性を引き出すことができるようにしていきたいです。